

令和6年度 学校評価報告書(自己評価書・学校関係者評価書)

令和7年2月5日作成

中期目標	重点努力目標(評価項目)	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)
生徒の「自律」と教師の「自立」に向かう教育の推進 学び合い、高め合う、魅力あふれる学校	1 「自らを律して たくましく生きる生徒」を育てる。 ① 問題解決的な生活と学習を通して「生き方改革」と「学び方改革」を図る。 ② 4部会で掲げる「目指す生徒像」の実現に向け、具体的な手だてに沿って取り組む。 ③ カリキュラム・マネジメントへの参画意識を高め、授業の中で具現化して取り組む。	B	B	①お話しタイムなどの話し合いに力を入れ、学び合う場の充実につなげることができた。 【経営1~3】【問1~3】 ②定期的に部会を開催して手立てを検討し、共通理解を図って実践できた。【経営24】 ③現職研修で教職員のカリキュラムマネジメントへの参画意識が高まった。【経営44】	A	・落ち着いた雰囲気できれいな授業に取り組んでいる。授業では自分の意見を伝えられていると感じる。かかわりの場を充実させて学ぶ意欲を高めている。 ・落ち着いた雰囲気できれいな授業に取り組んでいる。授業では自分の意見を伝えられていると感じる。かかわりの場を充実させて学ぶ意欲を高めている。	・生徒たちは学習におけるかかわり合いの場を楽しみにしている。学び合いながら問題を解決する授業を更に進めていく。 ・一歩踏み出す生徒の育成を目指し、自分を高める力、仲間とかかわる力を教科横断的にさまざまな場面で育てていく。
	2 「本気で叱って本気でほめる 愛があふれる教師」を育てる。 ① 「信じて・任せて・見守る」スタンスで生徒に寄り添い、生徒と向き合う。 ② 「認めて・ほめて・伸ばす」ことを大切に、生徒の「よさ」に着目して背中を押す。 ③ 現研委員会の活動や自主的な研修を通して、「教師力向上」と「感性磨き」を図る。	A	A	①②生徒の達成感・充実感・次への意欲が高まるように、生徒主体の活動を支援できた。 【問23】【問24】 ③公開授業や現職研修での意見交換、講師を招いてのキャリアマネジメントの講話を通して、生徒支援の仕方について学び合い、共通理解を図ることができた。【経営28】	A	・生徒に寄り添った指導を今後もお願いしたい。「ほめる」ばかりにならず、生徒を伸ばす指導・支援を継続してほしい。	・学年や4部会で活動計画を検討し、生徒の自主的な活動の支援を継続していく。 ・一人の10歩より10人の一歩。生徒に身につけさせたい力の育成のための手立てを共通理解し、カリキュラムマネジメントを全職員で進めていく。
	3 生徒の育ちを見通した「魅力あふれる教育活動」を展開する。 ① 4部会・2委員会の方針をもとに、南部中の「よさ」「強み」をいかして工夫する。 ② 『南丸祭(体育・文化)』を柱に、生徒の手による学級・学年・学校づくりに取り組む。 ③ 「つなぐ」「いかす」視点で、「小中9か年」を貫いた体制づくりをすすめていく。	A	A	①各部の提案をもとに、生徒主体の活動を支援していくことができた。【経営27】 ②行事においては、かかわりを大切にした生徒主体の活動が展開できた。【問13,14,15】 ③小中の情報交換により生徒へのサポート体制の共通理解が図られた。【経営22,42】	A	・合唱コンクールはクラスが一つになって取り組んでおり、すばらしいものであった。生徒の活発な活動を教員が応援していると感じる。	・かかわり合いを大切にした生徒主体の活動を展開していくことで、生徒の達成感や充実感、自己有用感が高まるように、今後も生徒の活動を支えていく。 ・小中の情報交換を更に密にしていきたい。
	4 生徒と教師が「育つ組織」・教職員にとって「働きやすい環境」を整備する。 ① 「島長会」「研究部会」「学年団」をはじめとする「チーム」で学校・学年運営にあたる。 ② 「顧問制」による相談体制を機能させ、各チームの組織力と対応力を高める。 ③ タイムマネジメントを意識し、「業務の効率化」「組織の強化」「働き方改革」を図る。	B	B	①②4部会の提案内容について意見交換や共通理解を図りながら実践が進められた。 【経営26】【経営25】 ③教育活動や業務をPDCAサイクルで継続して見直すことで、業務の効率化や組織の強化が図られた。在校時間縮減につながった。【経営31,43】	A	・遅い時間まで電気がついていたり、教員はいつ休んでいるのかとを感じる。教員の働き方改革を今後も進めていってほしい。	・目指す生徒像の実現に向けて、各活動の重点目標を定め、活動内容を焦点化していく。部会の提案内容について積極的に意見交換していく。 ・PDCAサイクルで教育活動の効果的な展開を目指す。
	5 家庭・地域や小学校との連携を深め「信頼される学校づくり」を推進する ① 連携委員会の具体的な手だてを通して、家庭、関係機関との「つながり」を強化する。 ② 学校や生徒の情報を積極的に発信するとともに、生徒による地域貢献活動を継続する。 ③ 南部校区3校(合同)学校公開日を設置し、保護者や地域に開かれた学校を創る。	B	B	①③小中が連携して行う挨拶運動や南部清掃隊の活動を展開できた。 【経営42】【経営20】 ②学年通信や学校ホームページ、学校新聞により生徒の活動の様子を発信できた。 【経営21】【問26】	A	・小中の連携、地域とかかわりを今後も大切にしてほしい。清掃隊では生徒が一生懸命取り組んでいた。もう少し外への発信があるとよい。	・小中連携活動や地域にかかわる活動を継続・発展していくことで、地域の一員としての意識(社会性)を今後も育んでいく。取り組みについて積極的に発信していく。

【自己評価 A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:あまり達成されていない D:ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A:適切である B:概ね適切である C:あまり適切ではない D:適切とは言えない】